



クロノ沢はナメ床が続いた

になる。小さなルンゼ状になっている右俣へ二、三步踏み出してから戻り、左俣へ入る。水量はかなり少なくなり、兩岸ともヤブ多く、歩きにくい。

八時一〇分、水流なくなる。岩の下から湧水のようにになっているのを確認し、四〇分程ヤブをこいで、尾根に出る。(記……)

「タイム」クロノ出合(六:五〇)↓

二俣(七:四五)↓源頭(八:一〇)

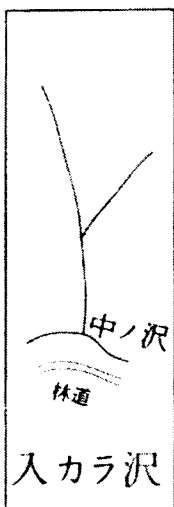
↓尾根(八:五〇)

入カラ沢

一九八五年六月三〇日

午後から友人の結婚式に出席する都合で、短い沢をねらって入る。出合の感じは何も無さそう。

身仕度を整えて遡行開始。沢は名前の通り、入ってすぐに溜れてしまふ。一五分も登ると、ヤブがかぶさり、遡行不能となってしまう。尾根を乗り越えてガラ沢を下降するつもりであったが、そのまま登ってきた沢を下降する。(記……)



「タイム」入カラ沢出合(八:五五)
↓遡行終了(九:一〇)